

# 令和6年度 第3回岡山市自然環境保全審議会

令和7年3月3日  
岡山市環境局環境部環境保全課

## ◆本日の審議事項◆

1. 第2回岡山市自然環境保全審議会の審議事項  
に対する指摘事項と対応方針について
2. 岡山市自然環境審議会 各回の審議内容
3. 市民意識の把握:第3回ワークショップ実施報告
4. めざすべき将来像と施策体系について
5. 来年度のスケジュールについて

## ◆参考資料について◆

【参考資料1】 第2回自然環境保全審議会の指摘事項と対応方針

【参考資料2】 第3回ワークショップ実施報告

【参考資料3】 将来像案検討結果

※適宜、お手元にてご参照ください。

# 1. 第2回岡山市自然環境保全審議会の審議事項 に対する指摘事項と対応方針について

## 第2回岡山市自然環境保全審議会の審議事項に対する 指摘事項と対応方針について

< 審議事項1：(仮称)生物多様性おかやまプランの策定について >

- 地域区分について➡1件
- アンケートについて➡1件
- 目指す将来像(案)について➡9件
- 状態目標について➡7件
- その他➡2件



分析や課題の整理を行うなど、最適な方針にて対応

(参照:参考資料1)



## 2. 岡山市自然環境保全審議会 各回の審議内容

## 2 岡山市自然環境保全審議会 各回の審議内容(予定)

審議内容	R6年度		
	第1回	第2回	第3回
	R6.8.22	R6.12.17	R7.3.3
1. (仮称) 生物多様性おかやまプランの方向性			
・内容構成(目次)	●		
・策定の視点			
・改定の背景、国内外の動向	●		
・市の方針、重視する事項	●		
2. 現状と課題			
・社会状況		●	
・自然状況		●	
・生物多様性の状況			
・生物相の状況	●	●	●
・地域区分、地域特性	●	●	●
・課題、取組むべき事項		●	●

前回は議論いただいたため、今回は割愛いたします

審議内容	R6年度		
	第1回	第2回	第3回
	R6.8.22	R6.12.17	R7.3.3
2. 現状と課題			
・市民意識の把握(1): アンケート調査			
・市民/事業者/中高生	●	●	
・市民意識の把握(2): ワークショップ			
・市民、保全団体(第1回: R6.7.21)	●		
・大学生(第2回: R6.11.9)		●	
・企業、保全団体(第3回: R6.11.30)			●
3. (仮称) 生物多様性おかやまプランの理念、将来像			
・理念、将来像	●	●	
4. 施策体系			
・目標		●	●
・施策、重点プロジェクト			●
・指標			
◆素案			
◆パブコメ(R7.12想定)を踏まえた最終案			



### 3. 市民意識の把握：第3回ワークショップ実施報告

### 3 市民意識の把握:ワークショップ

ねらい	既存の取組の組み合わせ・マッチング、協働連携の方法、市による支援策など
開催日時	令和6年11月30日 13:15~17:00
場所	操山公民館
参加者	①生物多様性の保全に取り組む市内企業の担当者 ②市内で活動する自然保護活動団体の方
参加人数	14名 ・ ①企業担当者8名、②自然保護活動団体の方6名
座学	・ 講師:環境省中国四国地方環境事務所 秀田智彦企画官 テーマ:生物多様性に関する国内外の取組について ・ 講師:地域環境計画 テーマ:アンケート調査結果、第1回、第2回ワークショップの紹介
自己紹介	・ 参加企業・団体の活動紹介と抱えている悩みや課題の共有
意見交換	・ 岡山市で既に行われている保全活動をさらに広げるためにできること・必要なこと
ゴール(目標)	・ 既存の取組の組み合わせ・マッチング、協働連携の方法、市による支援策など



(参照:参考資料2)



### 3 ワークショップ成果まとめ(1)

#### ◆活動の情報発信、情報取得

- 公民館での広報やSNS、参加者へのイベント案内の送付などをするが、参加者が地元から広がらない。
- 子どもに自然と触れ合う機会を与えたい親世代は多いが、生物多様性関係の情報を探る手立てがない。
- 一覧性の高いウェブページなどがあり、周辺市町村の活動情報も入手できると嬉しい。
- 参加への申し込みもウェブページからできるのが望ましい。

#### ◆企業活動として生物多様性に係る際、興味を持っていない人に参加してもらうには

- 自然共生サイトに認定された企業でも、認定後の社員の興味や認識の変化は部分的。
- 生物多様性に関連する活動は企業振興には大事だと思う反面、やらされている感があり、いかに自分事にしていかってという仕組みが大事。
- 瀬戸町のアユモドキの保全活動の例では、イベントに参加した小学生が大きくなって新卒採用に応募してきたということがあり、企業のブランド価値向上に寄与している。

#### ◆企業や団体の保全活動を小学校の課外活動に広げるには

- 教育課程にそのような単元はないため、学校側では実施するための理由付けが難しく、安全管理のリスクもあり相当熱心な学校でなければやってくれない。
- 課外活動を企業の活動に上手く組み込んでいる場合は、こういう企業があることや取り組みがあることの紹介にもつながり、子供が将来進みたい方向を考える一助になる。

(参照:参考資料2)



### 3 | ワークショップ成果まとめ(2)

#### ◆保全活動の中で得られたデータについて

- 記録種のデータを集積する仕組みがあるべきだと思う。
- 記録を残すのは準備・とりまとめなどが大変で体力のない小団体では難しい。

#### ◆意見交換で出た課題や施策につながる提案

- 岡山市の生物多様性に関する情報を集約し、情報発信するプラットフォームを求める声が子育て世代からあった。
- 保全活動団体が抱える悩みとして参加者の高齢化や地元からしか参加者が来ないという課題があるが、情報発信プラットフォームがあれば他地域の活動に関する情報が容易に得られるため、課題解決の糸口になるかもしれない。
- 学校の課外活動と保全活動をリンクさせる有効性が認めれるが、保全活動に関するカリキュラムがないことから組み込むことのハードルは高い。アユモドキの保全活動は、企業、活動団体、地元小学校の協働で行われており、協働での保全活動のモデルケースとなりそう。
- 岡山市内の生きもの情報(保全活動や観察会で得られたデータ)に関する情報を一元管理する仕組みが必要である。



## 4. めざすべき将来像と施策体系について

## 4-1 将来像案検討結果(1)

### ◆プラン全体の将来像

<具体的なイメージ>

- ・ 森・里・川・海の連環が維持・強化され、生物多様性の恵みが持続可能な状態で享受できている。

### 将来像

案1: 森、里、川、海、人がつながり、生物多様性の恵みを感じられるまち岡山

案2: 森、里、川、海、人のつながりが生まれ、自然と人が共生するまち岡山

(参照: 参考資料3)



## 4-1 将来像案検討結果(2)

### ◆地域ごとの将来像 ※各場所の状態

#### ① 里地里山の将来像

将来像: 緑の連続性が高く、里山ならではの良好な環境が維持され、岡山市の生物多様性のコアとなっている

<具体的なイメージ例>

- ・ 「身近な生きものの里」事業に関わる市民や事業者が増え、保全活動が活発化し、生物多様性の保全が進んでいる。
- ・ 「岡山市の重要生態系リスト」掲載地での市民や事業者による保全の取り組みが行われ、生物多様性の保全が進んでいる。
- ・ アユモドキ、スイゲンゼニタナゴ、ナゴヤダルマガエル、ホタル、オオタカ、サシバなど、豊かな生物多様性の指標となる生物について、保全活動の一環として継続的な調査がなされ、その情報が市民に共有されている。
- ・ 多様な農業形態が展開されることで新たな農業従事者が増え、後継者不足が改善されている。
- ・ 「自然共生サイト」への登録の進行などにより、良好な自然環境が維持され、市民活動の場にもなっている。
- ・ 里山の豊かな自然や農産物をいかした農業体験、生産地のオーナー制度等の仕組みの導入により、関係人口の増加や新たな地域づくりがなされている。



## 4-1 将来像案検討結果(3)

### ◆地域ごとの将来像 ※各場所の状態

#### ②低地・干拓地の将来像

将来像:豊かな海が再生し、河川や水路、水田による水辺のネットワークが維持・強化され、豊かな水辺と農業を育むエリアとなっている

##### <具体的なイメージ例>

- ・ 市街地に近い旭川、百間川の水辺、倉安川、祇園用水などの水辺空間が良好な状態で維持されている。
- ・ 高島地域で保全されてきたホタルの生息地が継続して保全され、ホタルの生息も確認されている。
- ・ 児島湖や阿部池のヨシ原や開放水面の環境が維持され、カモ類やサギ類などの水鳥の良好な生息地としての機能が維持継続されている。
- ・ 残存する藻場や高島干潟、砂浜、塩性湿地などについて、継続管理に向けた調査が進み、情報が共有されるとともに、場の保全が図られている。
- ・ 干拓地を中心に広がる農地では、継続して米作を中心とした多様な農業生産が行われているほか、遊休農地の有効活用が進み、ぶどう、桃、なし、いちごなどの果樹栽培をはじめとした高付加価値型農業が発展している。
- ・ 児島湾では、水質改善が継続的に図られ、改善が進行している。



## 4-1 | 将来像案検討結果(4)

### ◆地域ごとの将来像 ※各場所の状態

#### ③市街地の将来像

将来像: 周辺の緑と水辺をつなぐ小さな拠点が様々な主体により作られ、市民が身近な自然で季節を感じられるエリアとなっている

##### <具体的なイメージ例>

- ・ 旭川の水辺や西川緑道公園・枝川緑道公園の保全と利用環境の新たな創出が図られ、場所によってはホタルが生育する良好な環境が創出されている。
- ・ 自治会組織やNPO、企業(事業者)、大学などの連携と岡山市のサポートにより、多様なコミュニティづくり・地域づくりが進んでいる。特に、学生など若者層の新しい価値観やアイデア、力をいかした地域づくりが進んでいる。
- ・ 企業(事業者)による生物多様性保全の取組みが進んでいる。
- ・ 環境保全の取組を発表したり、情報交換を行う場が設けられている。
- ・ 生物多様性や自然環境に係る情報の拠点が(オンライン上に、あるいは実際の場として)整備され、誰もが利用できるものとなっている。



## 4-1 | 将来像案検討結果(5)

### ◆私たちの姿の将来像 ※人のあり方の状態

将来像:

<市民の状態>

自分の生活と自然とのかかわりを考え、地域で解決する力ができていて、自分のまちを好きになっている

<企業(事業者)の状態>

持続可能な社会づくりのために、生物多様性に配慮した事業活動を行うことが企業(事業者)振興につながることの重要性を理解し、従業員が生物多様性に配慮する事業活動を自分事としてとらえて行動し、やりがいにつながっている

<岡山市(行政)の状態>

人と自然のつながりが深まり、すべての人が岡山市の生物多様性の恵みを認識し行動ができるように、生物多様性の保全と持続可能な利用について計画的に施策を展開し、情報発信と多様な主体の活動と連携をサポートしている



# 4-2 施策体系案

基本戦略	基本戦略1 生物多様性を守る 生きものが暮らす多様な環境の保全と創出、再生	基本戦略2 生物多様性を活かす 自然を活用した地域づくり	基本戦略3 生物多様性を支える 生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり
状態目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生物多様性を育む水辺(水路、水辺ネットワーク)が保全され、維持・強化がなされている</li> <li>2 生物多様性を育む里地里山や緑地、農地の保全がなされている</li> <li>3 生物多様性の回復・創出が進み、市域の生態系ネットワークが形成されている</li> <li>4 生物多様性を著しく損なう外来生物対策が推進されている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然環境の機能を活用したインフラ整備が行われている</li> <li>2 持続可能な農林水産業の促進による地域づくりが進んでいる</li> <li>3 身近な自然にふれあえる地域づくりが行われている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生物多様性の恵みを意識したライフスタイルへの転換が進んでいる</li> <li>2 生物多様性について正しく学び、実践する人が市域に増えている</li> <li>3 生物多様性に関する情報拠点があり、情報の収集・蓄積・活用がなされ、様々な主体との連携による事業が進んでいる</li> </ol>
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 水辺環境の保全を推進する</li> <li>1-2 在来種や希少種を保全し増やす</li> <li>2-1 森林、草地、耕作地の保全を推進する</li> <li>2-2 在来種や希少種を保全し増やす</li> <li>3-1 生物多様性の回復・創出が必要な場所を把握し、健全な生態系を保全する</li> <li>4-1 外来種の適正管理と普及啓発を推進する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 森林の保全・整備による減災・防災機能を強化する</li> <li>1-2 市街地の緑化推進と公園や緑道の維持管理を継続する</li> <li>1-3 農業用水路や田んぼダムを有効活用する</li> <li>2-1 鳥獣被害対策を推進する</li> <li>2-2 農作物に深刻な被害を生じさせる外来生物の対策を推進する</li> <li>2-3 地産地消を推進する</li> <li>2-4 環境保全型農業を推進する</li> <li>2-5 遊休農地を有効活用する</li> <li>3-1 自然とのふれあいの場が増えている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 食品ロス削減を推進する</li> <li>1-2 自然環境に配慮したプラスチックの利用推進をする</li> <li>1-3 生物多様性に配慮した食品や製品、サービスの利用推進をする</li> <li>2-1 自然環境に関わる環境教育・環境学習の場と機会の提供をする</li> <li>2-2 生物多様性に係る人材を育成をする</li> <li>3-1 生物多様性情報の拠点となるプラットフォームを作成・活用する</li> <li>3-2 様々な主体と連携した活動を推進する</li> </ol>
現行戦略で取り組んだ主な事業	自然環境モニタリングの実施と公開 岡山市の重要生態系リストの作成と公開 身近な生きものの里事業	インスタグラムを利用した情報収集と発信 身近な生きものの里事業	岡山市の重要生態系リストの作成と公開 身近な生きものの里事業 インスタグラムを利用した情報収集と発信 生物多様性の普及啓発用品の開発と配布 岡山市環境パートナーシップ事業



# 4-3 重点プロジェクト案

基本戦略	重点プロジェクト	ねらい	現行戦略の重点プロジェクトとの対比	対応する現行戦略での成果指標	現行戦略で取り組んだ主な事業
基本戦略1 生物多様性を守る:生きものが暮らす多様な環境の保全と創出、再生	OECM(自然共生サイト)などの保全地区の拡大と質の向上	共生地区などの既存の保全地区の生物多様性の質の向上と市民、事業者、岡山市が連携した活動による自然共生サイト面積の拡大を通じてネイチャーポジティブの達成に寄与する	①開発行為や事業活動における適切な環境配慮の推進	アユモドキの実態調査対象地域の拡大 森林や原野の割合 身近な生きものの里認定地区数	自然環境モニタリングの実施と公開 岡山市の重要生態系リストの作成と公開 身近な生きものの里事業
	希少野生生物の保全	アユモドキやスイゲンゼナタナゴなど岡山市を代表する希少野生生物の生息・生育環境の保全を行う	①開発行為や事業活動における適切な環境配慮の推進 ②重要な生態系の保全		
	外来種対策の推進	岡山市における生物の生息環境の保全と回復のために、生物多様性への影響が大きい外来生物について普及啓発を行う			
基本戦略2 生物多様性を活かす:自然を活用した地域づくり	生物多様性を支える農業環境の改善と拡大	農地は米や野菜、果物などの生産の場としての機能以外に、生物の生息生育環境としての機能や、雨水流出抑制といった自然を活用した解決(NbS)、景観の維持など、様々な機能を持つ一方、第一次産業従事者の減少や高齢化による遊休農地の増加などの課題も抱えているため、岡山市らしい農業環境の保全と再生を行う	②重要な生態系の保全	みどり認定数	Instagramを利用した情報収集と発信 身近な生きものの里事業
	「まちなか」における生物多様性の保全と活用	岡山市は市街地中心部でも「まちなか」の利便性と自然とのふれあいを同時に享受できる場があるという特長をもち、この場が自然を活用した解決(NbS)の提供や来訪者も集うまちの魅力となっていることから、岡山市らしい「まちなか」の生物多様性の保全と活用を行う	③「まちなか」における生物多様性の保全と活用		
基本戦略3 生物多様性を支える:生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり	生物多様性を学ぶ拠点づくりによる情報共有と普及啓発の推進	市民一人ひとりが生物多様性の保全や資源の正しい利用に向けて、積極的に関わっていくために、岡山市の生物多様性に関する情報の発信と普及啓発を行う	④生物多様性を学ぶ拠点づくり	地域環境教室の年間参加者数 自然体験・文化伝承に関する公民館講座数	岡山市の重要生態系リストの作成と公開 身近な生きものの里事業 Instagramを利用した情報収集と発信 生物多様性の普及啓発用品の開発と配布 岡山市環境パートナーシップ事業
	生物多様性を支える人づくりとパートナーシップ活動の推進	岡山市では第一次産業従事者や市民活動団体の高齢化による担い手不足が課題であり、市民、事業者、岡山市の連携を強化するために、環境保全活動に参加する市民、事業者(特に若い世代をターゲットに)を増やしパートナーシップの裾野を広げる	⑤主体や地域単位による活動の推進 ⑥里地里山里海を支える人材の確保		



## 5. 来年度のスケジュールについて

